

学校法人 高田学苑
高田短期大学育児文化研究センターだより

IKUBUN NEWS

第11号 2010.2.15

発行 高田短期大学育児文化研究センター
〒514-0115 三重県津市一身田豊野195
TEL 059(232)2310(代表) FAX 059(232)6317

子どもの最善の利益の立場から

本年度のトピックといえば、政権交代、そして世界的なインフルエンザの流行でしょうか。政権交代を実現した民主党により、平成22年度からの「子ども手当」の導入や高校教育の実質無償化等の施策の実施に向けて、保育サービス等を含めた総合的な「子ども・子育てビジョン(仮称)」(新たな少子化社会対策大綱)が策定されようとしています。刻々と子どもを取り巻く現状は変化し、子育て・子育て支援の現場は翻弄されるような事態となっています。インフルエンザの流行では、子どもイベントを開催する立場として、いろいろなことを配慮しなければならず、改めて衛生面を始めとした子どもを取り巻く安全な環境について考えさせられる機会でもありました。また、このインフルエンザは若年層の流行であり、急変後死亡という事態もあったことから、子どもの発熱などの風邪症状には、即時の医師の判断が大切と、保護者も支援者も判断が非常に難しい状況となってきました。

どのような状況にあっても、次世代育成にかかわる私たちには、常に子どもの最善の利益とは何かということを念頭におき、子育て・親育ちの支援を地域から支える立場として専門性をもって対処する責務があります。今後も育児文化の研究、情報の発信、地域の子育て支援を実践できるような力量のあるセンターをめざして今後も努力を重ねていく所存です。どうかお力添えの程よろしくお願い申し上げます。 育児文化研究センター長 梶 美保

子育てママのホッ♥とひろばから

「子育てママのホッとひろば」が始まって2年経ちました。開催のきっかけは、こちらから何かを発信することは多いが、「受け止める」ということも必要だろうという賛同を当時のセンター長から得たことです。確かに「〇〇教室」や「絵本の読み聞かせ」など、こちら側が主催者となって開くものは多くあります。それと同じで「相談業務」においても、援助者のアドバイスが被援助者側が受け止めて終わる、ということも往々にして多いようです。そこで、おかあさん方から「日頃溜まっているうっぶんや本音を、リラックスした雰囲気の中で語って頂きそれを受容しよう」と開催に至りました。時々アドバイスもしますが、それは私が子どもの心を翻訳するだけのこと。こういうソフト面の事業もこれからは大切にしていきたいと考えています。子どもにとって最善の権利が守られるためにも。

育児文化センター主任研究員 橋本 景子



◆ 平成二十一年度事業報告	… 1頁
◆ センター長・主任研究員挨拶	… 1頁
◆ 子育て・子育てを応援する地域支援プロジェクト	… 2頁
◆ 企画事業	… 4頁
◆ 社会的活動への参加	… 4頁
◆ 定例研究会報告	… 5頁
◆ 新入会研究員・客員研究員の紹介	… 6頁
◆ 問い合わせ・アクセス	… 6頁

CONTENT



子育て応援隊 in わくわくフェス

平成 21 年度事業報告

平成 21 年度の重点取り組みとして、「子育て・子育てを応援する地域支援プロジェクト事業」を企画しました。子どもゆめ基金助成事業としての、中高校生対象の手作り絵本講座、地域での読書啓発イベント、絵本の読み聞かせ、および恒例の「音楽ひろば」や「子育てママのホッとひろば」などです。子育て応援隊は、今年も保育施設や自治体主催事業に積極的に参加、活躍しました。

<詳細はホームページ 高田短期大学>育児文化研究センター>活動内容

<http://www.takada.jc.ac.jp/cgi-bin/ikuji/list.cgi> をご覧ください。>

《企画事業》

(1) 子どもの夢を育む相談事業「子育てママのホッとひろば」(H21,6/27・10/17 於:本学第 4 会議室)



橋本景子研究員をコーディネーターに、現在子育て中の参加者が、日頃の子育てにおける本音を出し合い交流しました。参加者はひととき子どもから離れ、お茶とケーキでリラックス。子育てには、たまにはこんな時間も必要なのです。言いたいことを言葉に出して言えると、お母さん方の表情も爽やかになります。今回は、次世代育成応援の一環で募集した 4 名の高校生がボランティアとして参加しました。いろいろな遊びを工夫して、遊んでもらった子どもたちも満足そうでした。参加者は延べ 37 名でした。



この講座も次世代育成応援の一環で、中学生高校生対象に、絵本に親しんでもらい、絵本の世界の奥深さや製作活動の楽しさを体験してもらうことを目的として企画したものです。わけびき真澄研究員が、絵本製作をレクチャーし、自ら考えたオリジナルの物語や絵を構成していききました。エリックカールが特徴とされる

(2) 次世代の心を育む手作り絵本「保育教材をつくろう！-手づくり絵本に挑戦！-」(H21,7/11 於:本学造形演習室)



この講座も次世代育成応援の一環で、中学生高校生対象に、絵本に親しんでもらい、絵本の世界の奥深さや製作活動の楽しさを体験してもらうことを目的として企画したものです。わけびき真澄研究員が、絵本製作をレクチャーし、自ら考えたオリジナルの物語や絵を構成していききました。エリックカールが特徴とされる



テクスチャーの技法を活用することによりおもしろさと思いがけない効果に楽しく製作活動が行われました。16 名参加者の個性あふれる手作り絵本が完成しました。

(3) 子育て・子育てを応援する地域支援プロジェクト事業「親と子のための音楽あそびひろば」(H21,8/29)



三重県総合文化センター第 1 リハーサル室において開催されました。第 1 部では、あそび作家の浦中こういちさんによる「親子で楽しむふれあいあそび」で、浦中さん創作のあそびうた「にんにんにんじゃ」「おはな」などを歌って親子で楽しくふれあいました。

第 2 部は、福西朋子研究員とソプラノ歌手の木下和美さん(本学非常勤講師)、

学生ボランティア 9 名による「歌の世界を探検しよう!!」というミュージカル風コンサートでした。ピアノや歌、楽器、パネルシアターを用いて、子どもたちにおなじみの歌の世界を一緒に探検しました。親子で生の音楽に触れ、楽しい

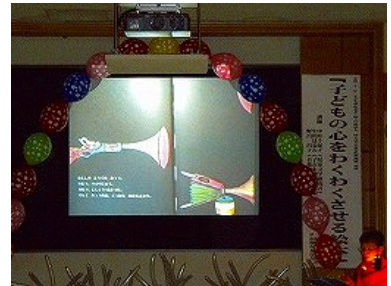


ひとときを過ごしていただけたようです。参加者は就学前の親子 25 組、66 名でした。

(4)「子どもの心をわくわくさせる絵本」(H21,9/27 於:四日市市立博物館 講座室)



中井千保子客員研究員、子ども読書研究家の生川はるみさん、音楽家の野呂昌子さんにより、ちょっと珍しい絵本のイベントが開催されました。上手な語りと効果音、歌、音楽・・・それらが見事に融合され、タイトル通り心をわくわくさせながらお話の世界に引き込まれていきました。



会場に展示されたたくさんの大きな絵本も好評で、第1部では珍しかったのでしょうか、お話よりも初めての大きな絵本に夢中になっている親子の姿も見られました。95 名という多くの参加がありました。

(5)「子どもの心を育む絵本の読み聞かせ」(H21,10/31・11/28・12/6・H22,1/16 於:本学育児文化室)



今年度も昨年に引き続き 4 名の講師陣により行いました。

10 月と 11 月は中井千保子客員研究員、子ども読書研究家の生川はるみさんにより行われました。絵がシンプルで味わいのある絵本、ことばあそびが楽しい絵本、自然への興味をかき立てる絵本、とんちの効いた昔話、そしてユニークな動物が活躍する絵本など、臨場感溢れる先生方の語りに参加者は熱心に聴き入っていました。

12 月と 1 月は岩附啓子・廣瀬玲子両客員研究員による講座で、保育教材も取り入れた楽しい絵本の読み聞かせが行われました。まだ 1 歳に満た

ないお子さんもいたことから、言葉の響きが楽しいものやユニークな形が登場するものなど、見て聞いて楽しめる絵本、そして手作り紙芝居や手袋人形によるお話に、親子ともにリラックスして楽しんでいただけたようでした。最終日の講座後半には「交流&質問コーナー」として、絵本の魅力や子どもへの与え方についてのお話がありました。



最後に、ボランティア学生によるサンタクロースさんからのかわいいバルーンのプレゼントがあり、子どもたちも大喜びでした。参加親子は 4 回の講座で延べ 77 名とインフルエンザの影響が当日の欠席も少なからずありました。

《社会的活動》

「子育て応援隊」として様々な活動に参加しました。

～子育て応援隊活動一覧&スナップ集～(スナップ写真番号は一覧表の No. です。)

No	月日	日	行事名	依頼内容	人数	場所	主催団体
1	4月5日	日	花まつり	幼児～小学生低学年の託児とバルーン体験	3	浄土真宗高田派 善性寺	浄土真宗高田派 善性寺
2	4月11日	土	お楽しみ会	バルーンレクリエーション	2	輝 ホール	回生病院介護老人保健施設 輝
3	4月25日	土	わいわい広場2009inサンアリーナ	バルーンの製作と配布	8	三重県サンアリーナ	株式会社 スコルチャ三重
4	5月21日	木	降誕会に行こう!	バルーンリリースの準備・運営補助	10	高田本山境内	一身田商工振興会
5	6月7日	日	歯の健康展	バルーンの製作と配布	10	津リージョンプラザ3階	歯の衛生週間事業実行委員会
6	6月21日	日	第54回三重県 第39回鈴鹿市母親大会	乳幼児・学童の保育	6	鈴鹿市文化会館	第54回三重県 第39回鈴鹿市母親大会実行委員会
7	6月27日	土	Mai mai「Bigコンサート2009」	舞台上でバルーンアートとパネルシアター披露、運営補助	4	美里文化センター ホール	美里さつき保育園子育て支援センター Maimaiくらぶ
8	6月28日	日	第8回ぐみの木まつり	まつりの保育及び模擬店の応援	6	ぐみの木はいくえん	社会福祉法人鈴生会 ぐみの木はいくえん

9	7月5日	日	一身田七夕祭り	バルーンの製作・配布	5	一身田寺内町	一身田青年団
10	7月7日	火	つ七夕まつり	七夕笹流しのオープニングイベントバルーンリリース 三重病院・三重大学病院小児科用バルーンリリース製作	3	津市東丸の内(観音橋) 三重病院 三重大学病院	社団法人 津青年会議所
11	7月10日	金	宿泊保育	活動の補助(子どもの食事・更衣・シャワーなど)	3	ゆたか保育園	ゆたか保育園
12	7月11日	土	平成21年度高田保育園夏まつり	各コーナーの準備と補助・バルーンの製作・配布	25	高田保育園2Fホール	高田保育園
13	7月18日	土	納涼大会	設営・販売補助と設置運営補助	6	まつさか幼稚園 園庭	まつさか幼稚園
14	7月21日	火	夏まつり	模擬店の補助・園児の手助け	13	高田幼稚園園庭	高田幼稚園
15	7月24日	金	おとまり保育	保育と活動準備の補助	3	みらいの森ゆたか園	みらいの森ゆたか園
16	7月25日	土	パパとふれあうベビーマッサージ	ふれあい遊びおよび運営補助	3	津市美杉総合開発センター	お産・子育て環境を考える会みえ
17	7月25日	土	パパと楽しいバルーン	バルーン製作および運営補助	3	津市美杉総合開発センター	お産・子育て環境を考える会みえ
18	7月30日	木	子育て支援者のためのベビーマッサージ講座	運営補助	2	玉城町保健福祉会館	お産・子育て環境を考える会みえ
19	7月30日	木	子育て支援者のためのバルーン講座	運営補助	2	玉城町保健福祉会館	お産・子育て環境を考える会みえ
20	8月8日	土	夏まつり	出店の準備手伝い	6	みらいの森ゆたか園	みらいの森ゆたか園
21	8月8日	土	パパとふれあうベビーマッサージ	ふれあい遊びおよび運営補助	2	熊野市保健福祉センター	お産・子育て環境を考える会みえ
22	8月8日	土	パパと楽しいバルーン	バルーン作成補助および運営補助	2	熊野市保健福祉センター	お産・子育て環境を考える会みえ
23	8月14・15日	金・土	一身田盆踊り大会	バルーンアート・バルーン配布	5	高田本山専修寺境内	一身田盆踊り大会実行委員会
24	8月22日	土	パパとふれあうベビーマッサージ	ふれあい遊びおよび運営補助	4	玉城町保健福祉会館	お産・子育て環境を考える会みえ
25	8月22日	土	パパと楽しいバルーン	バルーン作成および運営補助	5	玉城町保健福祉会館	お産・子育て環境を考える会みえ
26	8月22日	土	ファミリーキャンプ	イベント補助(ます掴み、クッキング、遊びなど)	5	朝明茶屋キャンプ場	子育て広場ドロップ
27	8月24日	月	買って・作って・味わおう! ~旬の食材を使ってお料理を楽しもう~	イベント補助(買い物、子どもの料理の補助および全体運営補助)	5	富州原の市、富州原地区市民センター	子育て広場ドロップ
28	9月18日	金	高田本山合同参拝	バルーンリリース製作(1100個)	3	高田本山	三重県仏教保育協会
29	9月26日	土	パパとふれあうベビーマッサージ	ふれあい遊びおよび運営補助	5	志摩市大王保健センター	お産・子育て環境を考える会みえ
30	9月26日	土	パパと楽しいバルーン	バルーン作成補助および運営補助	5	志摩市大王保健センター	お産・子育て環境を考える会みえ
31	10月12日	日	津まつり出店 中日新聞PR	ツイストバルーンの作成・配布 ブース飾り付け等	5	NHK津前 中日新聞ブース	中日新聞新生活会 津市部
32	10月17日	土	自分で作るとおいしいよ お米編	料理教室のアシスタント	2	津市中央保健センター	三重大学地域情報化リサーチセンター・津市
33	10月18日	日	自分で作るとおいしいよ お野菜編	料理教室のアシスタント	2	津市中央保健センター	三重大学地域情報化リサーチセンター・津市
34	10月18日	日	津医療生協 第4回健康づくりフェスタ	バルーンアート	3	大門大通り商店街	津医療生協共同組合 第4回健康づくりフェスタ実行委員会
35	10月31日	土	ハロウィン	バルーンアート	5	津センター・パレス地下	特定非営利活動法人 津市NPOサポートセンター
36	11月3日	火	松阪市氏郷まつり	ツイストバルーン配布	5	松阪駅前周辺商店街	中日新聞 松阪支部
37	11月8日	日	子ども料理体験教室	アシスタント	3	津市中央保健センター	三重大学地域情報化リサーチセンター・津市
38	11月29日	日	第9回ぐみの木まつり	保育及び模擬店の補助	6	ぐみの木ほいくえん	社会福祉法人 給生会 ぐみの木ほいくえん
39	12月5日	土	生活発表会	園児の着替え・舞台設定等の補助	20	高田短期大学講堂	高田幼稚園
40	12月12日	土	育成園イルミネーションイベント	運営補助・会場装飾	1	名張育成園	社会福祉協議会名張育成会
41	1月16・17日	土・日	わくわくフェスタ	ブース出展・運営補助と会場装飾	150	三重県営サンアリーナ	三重県・みえ次世代育成応援ネットワーク
42	1月24日	日	元気っ津まつりinげいのう	ブース出展・運営補助と会場装飾	21	津市芸濃保健センター	津市子ども総合支援室
43	2月7日	日	ゆたか幼稚園バザー・作品展	バザー運営・補助とバルーンアート	6	ゆたか幼稚園	ゆたか幼稚園
44	2月13・14日	土・日	津市の保育園展	ブース出展・運営補助と会場装飾	5	三重県文化会館 第1・第2ギャラリー	津保育所施設長連絡協議会
45	2月27・28日	土・日	マタニティーフェスティバル	ブース出展・運営補助と会場装飾	25	フレンテ三重	子どもの権利フォーラム・マタニティーフェスティバル実行委員会



No.1. 花まつり



No.5. 歯の健康展



No.41. わくわくフェスタ



No.42. 元気っ津まつり

定例研究会報告

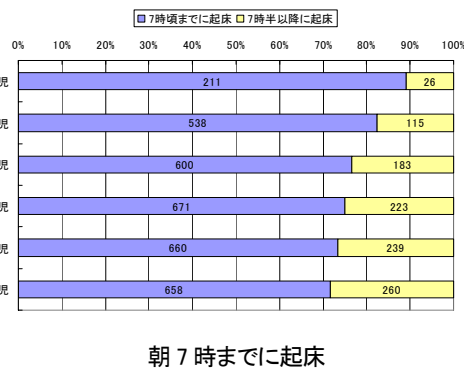
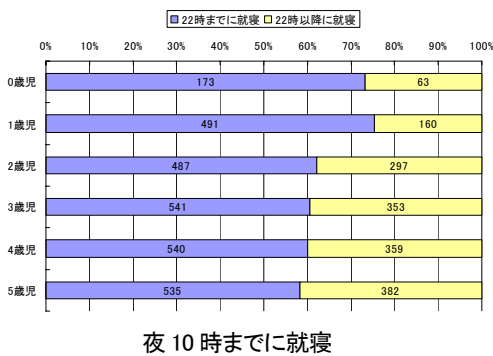
第 23 回(7/15)、第 24 回(10/21)、第 25 回(12/16)の定例研究会の報告です。

第 23 回

テーマ：津市における子どもの生活リズムの向上のための調査研究報告
レポーター：梶美保研究員・林原尉津子研究員



近年、就寝時刻が遅く、朝食を食べない子どもが増加しているなど生活習慣の乱れが指摘されています。これは、平成 20 年度文部科学省「早寝、早起き、朝ご飯」国民運動プロジェクト「子どもの生活リズム向上のための調査研究」啓発事業の一環で、津市内の 56 保育園の約 5,400 名の保護者、760 名の保育士、56 名の施設長等職員を調査対象としたものです。親子の生活リズム実態および園の生活リズム向上を目指した実践活動の評価についての報告が行われました。



第 24 回

テーマ：障害児保育の理念と動向
レポーター：千草篤磨研究員

障害児保育に関する、ともすると見逃されがちな所を指摘された研究発表でした。障害児保育の歴史に始まり、その概念や用語の変遷についての詳しい報告がなされました。用語など形の上での差別を考えるよりその本質を知ることの大切さ、そしてその本質を知るためには何が大切なのかを判断できる力を私たち自身が身につけることが大切であると改めて考えさせられました。



第 25 回

テーマ：親子で楽しい絵本の読み聞かせの体験講座 —実践報告とまとめ—
レポーター：岩附啓子客員研究員

『絵本』の説明に始まり、現代の子どもたちと絵本の移り変わり、学生の傾向や親と絵本についてなど、様々な角度から『絵本』について考える機会となりました。「子どもに何かを教え込もうとする目的で絵本を与えるならば、絵本嫌いの子どもの育ってしまう可能性がある」と言われましたが、本当にそう思います。大人と子どもで絵本を媒介にして一緒に楽しみたいものです。



研究員の活動紹介・新入会研究員の紹介

大西 眞純 研究員 (新入会)



昭和 63 年から現在のオフィス情報学科教員としてお世話になり、平成 22 年 3 月で本学を定年退職することになりました。専門分野は情報処理・教育工学ですが、10 年前より国際的な支援活動として、スリランカの教育や文化の支援を目的に NPO 団体などと協力して活動してまいりましたので、これを期に育児文化センターの一員に加えていただき、育児文化の研究活動を行なってまいりたいと願っております。スリランカでは大津波の被害地に支援物資を届けたり、学校に図書を送るなどの活動と共に、スリランカに設立しました“メッタ(慈しみ)幼稚園”の支援を続けてきました。この幼稚園は一昨年で 10 周年を向かえ、200 名を超える現地の子どもたちが通っています。国や文化が変わっても、親が子を思う気持ちには変わりありません。子育て支援という観点から、この幼稚園を拠点に、国際的な育児文化研究として、教員や園児、保護者との交流を図りながらセンターの活動に貢献できるよう努めて参存です。どうぞ宜しくお願いいたします。



上村 晶 研究員 (活動報告)

今年度は、0 歳児の父親を対象としたふれあい遊びを実践させていただきました。赤ちゃんに触れることに慣れていただけのような遊びを紹介しましたが、どのお父さんもお子さんと心から向き合っていて楽しむ姿が印象に残っています。「ほらおいで!」「♪かわいい○○くんがね～」など、幼いお子さんとじっくり見つめ合い、優しく声をかけ歌を口ずさむお父さんたちの姿から、お子さんに注ぐ父親の愛情を肌で感じました。最近父親の育児参加に関するニーズが高まっていますが、大切なことはお子さんとの時間を多く費やすことより、短い時間でも深い関わりができるかだと思います。そして、何より親自身が楽しむことで「やってあげる遊び」ではなく「共に楽しむ遊び」として親子双方に良い影響を与えていくと感じています。今後も地域の子育て支援のために微力ながら貢献できるよう、親子のふれあいの大切さ・楽しさを発信していきたいです。

池村 進 研究員 (活動報告)

「出前講座・科学遊び」県内各地の園に出かけている。子どもは遊びの達人であり、ほんの些細な何気ないことや物から、遊びにしていくのではあるが、環境によっては、遊びのジャンルに偏りがある場合もある。園や家庭で楽しみながら科学の考え方を育む遊びの幾つかを紹介してきた。「空中遊泳」・・・タイトルは壮大であるが、素材は、身近にある使用済みペットボトルとストローである。ペットボトルの上部数センチを切り取り、穴をあけたキャップに折れ曲がり自在のストローを通し、発泡スチロール製の球を口で吹き上げるのである。これはパソコンにストローを接続し画面の球を吹き上げ画面の写真の変化を楽しむバージョンも紹介している。子どもたちは少しでも長く空中に球を留めようと工夫しながら、流体力学の法則「ベルヌーイ法則」に浸っているのである。園の子どもたちの保護者から、ストローを吹くことによって、子どもの発声や発音に効果が観られたとの報告を受けたときは、望外の喜びであった。

センターへのお問い合わせ・アクセス

高田短期大学育児文化研究センター
 住 所 〒514-0115 三重県津市一身田豊野 195
 Tel (059) 232-2310
 Fax (059) 232-6317
 高田短期大学 内線 123 番
 Mail ikubun@takada-jc.ac.jp



～ 編集後記 ～
 社会でいろいろな事件が起き
 仕事柄いろんな出来事に遭遇
 しますが、本当の意味での親
 子のコミュニケーションがと
 れていけば、こんなことは起
 こらなかつたのに・・・とい
 うこともたくさんあります。
 来年度も、親子が楽しく暮ら
 せるお手伝いをしていきたい
 と考えています。(k・h)